

平成28年度 第2回東部地区幼稚園教員・保育士等の合同研修会

「保育者の専門性

～遊びの中の育ちと学びをみとり育む～」

日時：平成28年6月7日（火） 場所：福祉人材研修センター

【研修講師】 神戸大学発達科学部 教授 北野 幸子 氏

【ねらい】 遊びの中の子どもの育ちや学びをみとり育む
保育について理解を深め、保育者の専門性を高める。



【研修の様子】

1 遊びの中の育ちと学びをみとり育む保育者の専門性が求められています。

○体験から学ぶ幼児

- ・温かいまなざし（関心）と過度ではない期待が、自己肯定感や社会性、学びの意欲を育む。
- ・自尊感情や思いやり、自制心など非認知能力は幼児期に育てたい。これらは学びの土台となる力である。
- ・いざこざの経験を蓄積したその先に、待つ力、譲る力、自己有用感、感謝の心が育つ。
- ・「生きる力」は自分で考え、決めて、行動することによって育つ。これは遊びの場面で多く見られる。幼児は体験とそれに伴う好奇心や憧れといった感情によって動かされ、主体的に行動し、学んでいく。

指示や命令で子どもを動かしていませんか。子どもたちができないことを否定的に捉えていませんか。
子どもたちが、主体的に動きたくなる幼児期にふさわしい体験、遊びを保障していくことが大切です。

○遊びの中の学びをみとる

- ・言葉は、他者へ関わろうとする気持ち、物への関心、それらを伝えようという思いから育つ。
- ・保育者が単語ではなく文章で話をしたり、オープンエンドの質問をしたりするなどして、子どもたちの伝えたい気持ちを引き出すことで、幼児期の子どもたちに体験に根差した豊かな言葉を蓄えさせていきたい。

遊びの中で育まれる幼児の無自覚な学びに保育者が気づき、見通しをもって援助したり、環境構成を工夫したりすることが保育者の役割です。

言葉、数理などの認知能力は、好奇心や探究心、感情のコントロールなどの非認知能力の育ちとからまりあって育っていきます。非認知能力を育むことが、認知能力を育てることもつながっていきます。

2 <演習>子どもの数理認識の発達について考えてみましょう。

散歩のとき、わらびを見つけた子が、「見て。わらびはね、お日様の当たらないところに生えるんだよ。」と教えてくれた。気づかないうちに、日向と日陰について学んでいることに驚いた。保育室に、図鑑を置いてみようかな。



2歳児は、積み木に興味を持ち始めますよね。高さを競ったり、並べたり。どんな言葉かけができるかな。



数理的なことの例・・・数・量・形・空間・位置・変化と関係など。

幼児は、遊びや生活の中の教える、並べる、比べる、分ける、集めるなどの経験から、数理概念を体験的に学びます。幼児期の遊びと生活の豊かさを保障し、学びを見通した援助をしていくことが保育者に求められています。

【参加者の感想】

- ◇ 子どもたちが主体的に遊ぶことができるように、発達や興味・関心をしっかりと汲み取り、言葉かけや環境構成を工夫していきたい。じっくりと遊びこみ、遊びきることが、乳幼児期の子どもの教育で一番重要なことだと改めて学んだ。
- ◇ 幼児教育にとって大切なことは、「できた」「できない」の結果ではなく、好奇心、探究心、憧れなどを起点に子どもたちが主体的に動けるように導き、「知性の扉」を開いていくことだという先生の言葉が心に残りました。
- ◇ 指示や命令が多くなっていないかと、自分の保育を振り返る良い機会を与えていただいた。子どもが主語となる、誘いや提案の言葉かけを意識して保育をしなければと反省した。また、子どもたちが体験の中から学んでいるということを、自信をもって保護者に発信していきたい。
- ◇ 幼児期の子どもたちは、感情と共に、体験から学んでいくことを教えていただいた。子どもの学びや発達に見通しをもち、自覚的な援助ができるようにしていきたい。

子どもたちの笑顔が見られる保育をめざして・・・

